

ヒョウモンモドキの保護対策

(1) 種名 (学名)

ヒョウモンモドキ

(*Melitaea scotosia*)

環境省 RL2018：絶滅危惧 IA 類 (CR)

国内希少野生動植物種 (H23 指定)



(2) 生態の概要

- ・ 翅表が橙色と黒のヒョウ柄のタテハチョウ科のチョウです。
- ・ 食草はキク科のキセルアザミやタムラソウです。
- ・ 食草が生育する天然の湿地や採草地、放棄田、伐採地などの湿性草原に生息しています。
- ・ 成虫は年1回6～7月に発生します。



(3) 分布状況の概要

- ・ 国外では、朝鮮半島、中国北部・東北部、ロシア極東地域に分布しています。
- ・ 国内では、本州（福島県、茨城県、群馬県、千葉県、山梨県、長野県、岐阜県、愛知県、兵庫県、鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県）に広く分布していましたが、現在、分布するのは広島県中部の世羅・賀茂台地（三原市及び世羅町）のみです。

(4) 減少の要因

湿性の草原環境が開発等により消失・減少又は植生遷移により変化し、食草が減少したことなどにより生息数が減少しました。特に放棄田の生息地では徐々に植生遷移が進み、生息環境が悪化しています。

(5) 中国四国地方環境事務所の取組

地域の保護活動団体の調査結果を集約し、生息状況を把握しています。また、食草のキセルアザミの生育を促すための湿性の草原環境の回復方法等の試験を実施しています。

また、広島県と三原市、世羅町を中心に平成24年に設立された「ヒョウモンモドキ保全地域協議会」による保全活動に対して生物多様性保全推進支援事業により支援しました (H27-29)。

(6) 他機関、NGO 等の取組

「ヒョウモンモドキ保護の会」や「ヒョウモンモドキ保全地域協議会」とその構成機関が、モニタリング、湿性の草原環境の回復、人工繁殖個体の放チョウ、食草の移植等を実施しています。モニタリングでは、夏季に既知の食草の生育場所（27ヶ所）において、幼虫巢の全数カウントを行っています。

(7) 課題

食草のキセルアザミが生育する湿性草原を維持、回復するため、多大な労力が必要です。回復した湿性草原も数年すると他の植生が繁茂し、キセルアザミの生育を阻害してしまいます。湿性の草原環境のより効果的、簡便な維持、回復方法が求められています。

(8) その他（参考文献、HP 等）

三原市（広報みはら平成24年10月号 ヒョウモンモドキ特集）

<http://www.city.mihara.hiroshima.jp/uploaded/attachment/12674.pdf>